

* 「5千人の給食」として知られるイエスの奇跡は4つの福音書に記されている。

この奇跡が行われたのは「過越しの祭りが近づいていた」、また「草が多かった」春である。場所はペテロやアンデレの故郷ベッサイダに近い所だと思われる。

イエスと弟子たちは神の国を説きながらガリラヤの村々を何日もめぐり歩いていた。弟子たちも、ついてきた群衆も、かなり疲れていた。おなかも空いてきた。

* イエスは目を上げて、大ぜいの人の群れがご自分のほうに来るのを見て、ピリポに言われた。「どこからパンを買って来て、この人々に食べさせようか。」(ヨハネ6 : 5) ピリポは、買って来て皆に食べさせるには莫大なお金がかかる。そんなお金があるはずがない。アンデレは、「ここに少年が大麥のパンを五つと小さい魚を二匹持っています。しかし、こんなに大ぜいの人々では、それが何になりましょう。」(ヨハネ6 : 9) イエスは、群衆を座らせて、パンをとり、感謝をささげてから群衆に分け与えると、みんなが満腹し、残ったパンくずも12のかごに一杯になった。パンと魚が次々と増えていったとしか考えられない。

* この奇跡の目的①人々にイエスは真の救い主キリストであることを見るしを見せさせた。人々は、イエスのなさったしを見て、「まことに、この方こそ、世に来られるはずの預言者だ」と言った。(6 : 14) もしも科学的に証明できないものや合理性のないものは信じないというならば、この物語は作り話になってしまう。聖書から奇跡を取り除けば、聖書は普通の書と変わらない物になってしまう。

聖書のテーマは人間の罪からの救いである。そのために神が人となって来られて私たちの代わりに十字架に付き、よみがえられたのである。神の全知全能を信じなければ、私たちの救いはない。

* 目的②弟子たちに信仰を試し、訓練し、強めた。ピリポもアンデレも最初は理解できなかった。彼らも、先ず合理的に判断することを優先したし、私たちもそうであろう。しかし、主イエスとしては、ご自分が神の子救い主であることを本当に信じているのであれば、その信仰によって悟って欲しいと思われたのであろう。

神は時々私たちの信仰をためされる。困難や試練を与えて、信仰は本物かどうかを見られる。あきらめたり、絶望に陥ったままであると、主の恵みは与えられない。どんな時でも主イエスのわざを信じ、希望を持って歩むならイエスは必ず報いてくださる。

* 目的③主は私たちのすべての必要を満たし、養ってくださることを示している。

弟子たちは悟らなかったが、そんな愚かな者のためにも、また、群衆のためにも、その必要を知っておられ、それを満たされたのである。主は、私たちの日々の生活に必要なものを知っておられ、私たちが「神の国とその義とを先ず第一に求める」ならば、すべての物が与えられる。あすのための心配は無用であると言われる。(マタイ6 : 31 ~ 34参照)